# 中世の港町の構造を探る

# ―サウジアラビア紅海沿岸ハウラー遺跡の考古学調査(2021)―

長谷川 奏 早稲田大学・東日本国際大学客員教授

徳永 里砂 金沢大学客員准教授

西本 真一 日本工業大学建築学科教授

惠多谷雅弘 東海大学情報技術センター研究員・事務長

FUJII, Sumio Specially Appointed Professor, Kanazawa University

藤井 純夫 金沢大学特任教授

# Survey on the Site Plan of the Medieval Port: Archaeological Research at al-Hawra', Red Sea Coast of Saudi Arabia (2021)

HASEGAWA, So Visiting Professor, Waseda University and Higashi Nippon International University TOKUNAGA, Risa Visiting Associate Professor, Kanazawa University NISHIMOTO, Shin-ichi Professor, Nippon Institute of Technology ETAYA, Masahiro Researcher and Bureau Chief, Tokai University Research and Information Center

### 1. はじめに

発掘報告会では、これまでのサウジアラビア・日本 合同調査隊による紅海沿岸のハウラー(al-Hawrā')遺 跡(図1)の調査成果に、2022年2/3月調査の最新情報 を速報として加え、報じる予定であるが、昨今のコロ ナ事情により発掘調査が実行できるかどうかは不確定 であるため、ここでは既報の部分との重複を避け、後 背地の碑文調査に光を当てる形で報じたい。ハウラー は、イスラーム以前よりジュハイナ族の土地として知 られ、9世紀以後にはエジプトからの巡礼路上の町、 内陸のワーディー・アルクラーの諸都市の港として機 能した。10世紀後半、ムカッダスィーはハウラーを ハイバルの港と捉え、その城砦と繁栄の様子を記した。 12世紀半ば頃までハウラーは命脈を保ったようであ るが、13世紀のヤークートの記述からは、既にハウ ラーが廃墟と化していたことが窺われる。このような 記述を踏まえ、私たちは、海洋から山間(砂漠)を経て ヒトやモノが通ったネットワークの実態を解明するた め、ハウラーの港町とその後背部を通る古道との総合 考察を行っている(図1)。

## 2. ハウラー遺跡の発掘調査

ハウラー遺跡は、タブーク州ウムルジュの 10 km ほど北に位置し、南北に 2 km、東西に  $0.5 \sim 1.0 \text{ km}$  程 度の広がりを持つ。1980年代に在地の考古学研究者

によって部分的な試掘調査が行われたが、基本的には 未調査の遺跡である。遺跡は港域と集落域に分化され、 このうち集落域(House 1~4)は、東西 300 m、南北 150 m ほどの規模を測る(図 2)。上部構造は既に失わ れているが、分布する遺構の多くには、火山岩や珊瑚 ブロックが用いられている。集落の一角には、1980 年代の試掘調査でモスクと推測される遺構もみつかっ ており、クルアーンの一節が記された堂々とした石製 リンテルが取り上げられている。サーベイ段階での大 きな調査成果は、この集落域の一角から得られた。こ こでは厚い壁厚(約 1.5 m)を有するほぼ方形の珊瑚造 の建造物が発見され、その防御的性格は明らかであっ た。ムカッダスィーの記述には、「砦と集落、市場」 の存在がみられるために、発掘調査によってその遺構 の性格が明らかになることが期待されたのである。そ こで2020年の春に発掘調査を行い、表層下1m程度 までの掘り下げを行ったところ、壁体が内面に向かっ て倒れこんでいることや、遺構の外壁部分に関しては、 初見時の見通しどおりに、東壁(約34m)が西壁より やや長い台形状を呈していたことが確実となった(図 3)。集落域南端のクリーニングでは、壁体で囲まれた 部屋構成が明らかになりつつあり、壁体下部に排水溝 をもち、床面にはられたモルタルが良好に残存する キッチンもみつかった(図4)。キッチン周りの床面か らは、多数の石製すり石がみつかり、アルカリ釉(青 緑釉)の完形の碗も出土している。

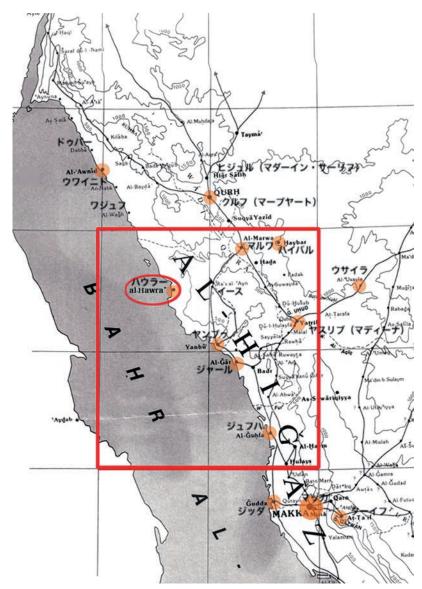


図1 研究対象地区周辺の都市分布

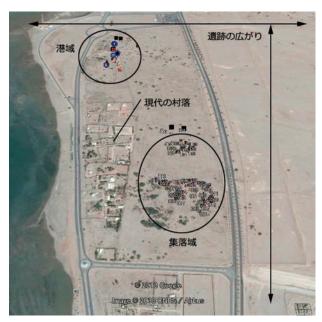


図2 ハウラー遺跡の遺構分布



図3 砦遺構北側部分の発掘終了風景



図4 キッチン遺構の発掘終了風景



図5 2020 年後背地調査の地区と碑文の分布

## 3. 後背地碑文調査

ハウラーが直接結びついていたと考えられる内陸都市は、北からマルワ(ハウラーの北東約130kmに位置するウンム・ザルブの可能性が高い)、イース、ヤンブゥ・アンナフル(以下ヤンブゥ)である(図1)。後背地調査では、これらの町へのルートとヤークートの記述からも垣間見られる採石場や鉱山の存在を念頭に置きつつ、①現地のインフォーマントからの情報、②衛星画像分析結果(東海大学情報技術センター・チームが担当)を活用し、碑文(グラフィティ)の存在が見込まれる地点に絞って踏査を実施している。起点のハウラーに隣接する地域には砂漠が広がり、砂丘の先の山塊の岩肌は刻文に適さない。従って、有効な調査域はハウラーから数十km以東のハッラト・ルナイイル溶岩原の南の地域である。

これまでの調査成果を概観すると、初期イスラーム時代のアラビア文字碑文(7~9世紀)については、ウムルジュの40km程東を東西に走るワーディー・アッタバク(図5、D地区)で発見された2点の碑文(図6)は、さらに東のサフラ(図5、A地区)の4点の



図6 ワーディー・アッタバクのアラビア文字碑文



図7 ワーディー・アッタバクの溶岩流

アラビア文字碑文とともにハウラーとイースを結ぶ道 との関連が示唆される。しかし、このワーディーには 1000年頃の火山活動による溶岩流が流れ込み(図7)、 これ以上の碑文の発見は見込めなかった。ハウラーの 南東約70kmのハラード地域(図5、A地区)にはアラ ビア文字碑文の集中が見られるが(図8)、こちらは、 ヤンブゥあるいはマディーナに続くルートと関連する ものであろう。一方、より広範囲の分布が見られるの が古代北アラビア文字碑文である。この地域の碑文は、 縦書きのサムード文字D、Cとそれらの異形が中心で あり、大半の年代は前1~後3世紀頃と推定されるが、 岩壁面の考察から一部はさらに年代を遡るものと思わ れる。また、ハウラーの 40 km 程南南東のワーディー・ アルムライリーフ(図5、B地区)で発見された21点 の古代北アラビア文字碑文には、既存の分類に当ては まらない新出の文字を含むものもあり、さらなる資料 の発見と解読が必要とされる(図9)。エジプト巡礼路 はこのワーディーを含む山塊の中を通っていた筈であ



図8 ハラードのアラビア文字碑文



**図9** ワーディー・アルムライリーフの古代北アラビア文字碑文

るが、これまでの調査ではハウラーを通過するこの巡礼路に関わるアラビア文字碑文は発見されていない。2019年に調査を行ったより内陸のイース地域のクスバでは、イエメンで使用されていた古代南アラビア文字、ウラー地域で使用されていたダーダーン文字碑文など、前1千年期の遠隔地との繋がりを示す資料が存在する一方、ハウラーに近い地域でこれまでに発見された碑文は、ほぼ全てが時代を問わず在地の住民によるものと考えられる。

この調査では、碑文以外にもハウラー後背地に広く 分布する先史のペトログリフ、青銅器時代以降の様々 な遺構の存在を確認した(図10、11)。

#### 4. おわりに

上記が、これまでの調査成果の概要である。発掘調査では、10世紀のムカッダスィーの描写とのすりあわせという大きな命題との取り組みが課題となり、後背地の碑文調査では、より網羅的な分布調査を完結さ



図10 ワーディー・アルヒドルの山上の遺構



図11 ムライイフの山上のケルン状遺構

せることが今後取り組むべき目標となっている。両調査の総合によって、移動ネットワークの構造と港町の都市構造がより明確になることを期待して、研究を推し進めたい。

#### ■参考文献

- · al-Ghabbân, Alî Ibrâhîm 2011 Les deux routes syrienne et égyptienne de pèlerinage au nord-ouest de l'Arabie Saoudite, Le Caire
- · Hasegawa, S. and R. Tokunaga 2018 "Preliminary Report of the First Season of the Saudi-Japanese Archaeological Mission at al-Hawra', Umluj and its Hinterland: March 2018," *Archaeological Research at al-Hawra': Medieval Port Site on the Red Sea Coast of Saudi Arabia* 1, Tokyo: Saudi-Japanese Archaeological Mission at al-Hawra' Research Office, 2018.
- Hasegawa, S., R. Tokunaga, S. Nishimoto and A. Alorini 2020 A new perspective on the site plan of al-Hawrā', a medieval port on Saudi Arabia's Red Sea coast. *The IASA Bulletin* 25: 17–19.
- Hasegawa, S., R. Tokunaga, A. Alorini and S. Fujii 2021 Survey of al-Hawrā' 2020: Uncovering the structure of a medieval port city on the Red Sea coast. *The IASA Bulletin* 2021: 26–28.
- · al-Idrīsī, Kitāb nuzhat al-mushtāq fī ikhtirāq al-āfāq, Cairo, 1990.

- · al-Muqaddasī, Aḥsan al-taqāsīm fī ma'rifat al-aqālīm, Damascus,
- · Yāqūt, Mu'jam al-buldān, Beirut, vol.2, 2010.
- ・惠多谷雅弘・中野良志・長谷川奏・徳永里砂・アブドゥルア ジーズ アルオライニー 2019「WorldView-2データで発見し たサウジアラビア紅海沿岸の中世の港域 "SJ06" について」

『日本リモートセンシング学会誌』第30巻第5号 405-413頁。 ・長谷川奏・徳永里砂・西本真一・惠多谷雅弘・藤井純夫 2021 「サウジアラビア紅海沿岸ハウラー遺跡の考古学調査(2020)」 『第28回西アジア発掘調査報告会報告集』101-104頁 日本西 アジア考古学会。